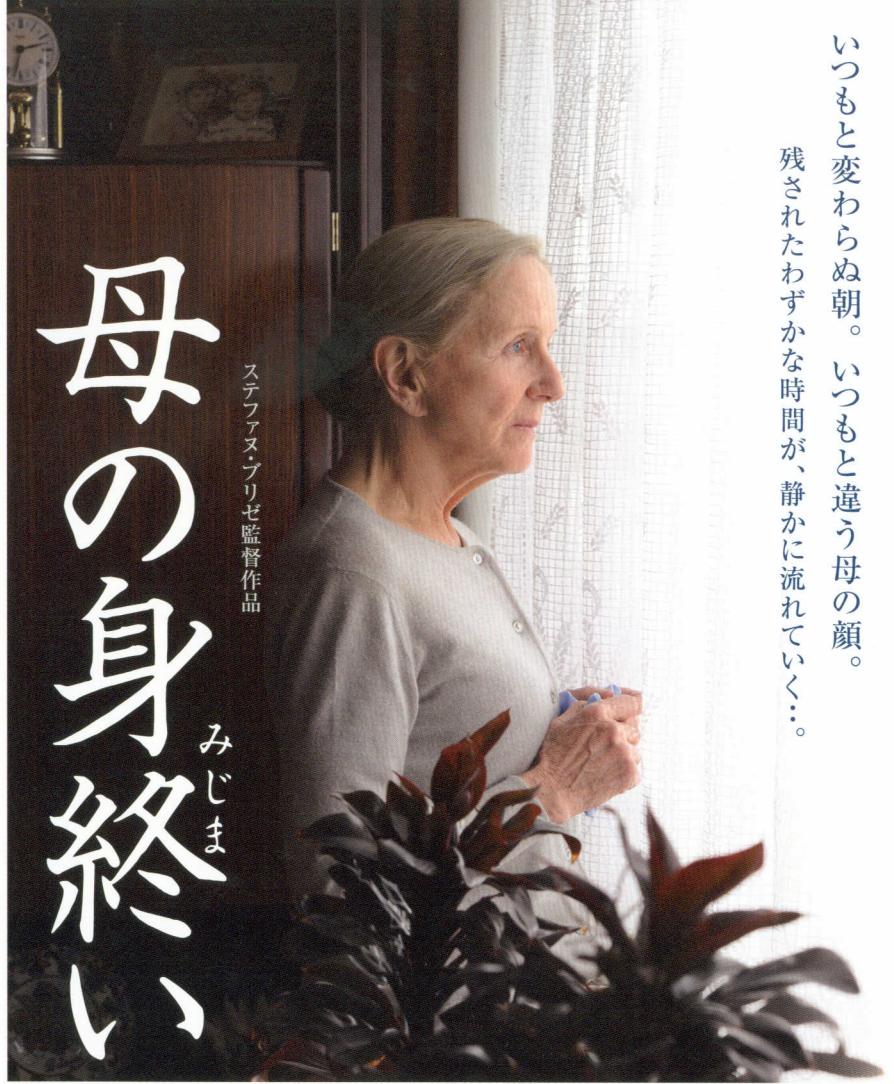


いつもと変わらぬ朝。いつもと違う母の顔。

残されたわずかな時間が、静かに流れていく。：



『母の身終い』は人生のあり方や終え方への心構え、  
そして家族愛を問う人間ドラマであり、**<究極の終活映画>**です。

## Story

出来心から麻薬の密売に手を出して服役したトラック運転手アランは、出所後闘病中の母イヴェットの家に身を寄せて、なんとか人生の再出発をしようとがいでいた。ふたりの間には長年にわたって確執があり、なにかとぶつかり合う。そんなある日、アランは引き出しの中の書類を手に取って愕然となる。そこには、“スイスの施設で尊厳死”“人生の終え方を選択する”といった文章が書かれ、母のサインがあったからだ。イヴェットは自分らしく人生を終えようと決心していた。アランの心は激しく揺り動かされる。ふたりの残された時間は、あまりにも少ない。そしてついに母が旅立つ日がやってきた……。

Quelques  
heures de  
printemps

11/30 土より 〈涙と感動〉の  
お正月ロードショー!

特別鑑賞券¥1,500(税込) | ペア券¥2,800(税込) 絶賛発売中

当日一般¥1,800(税込)の他

◆劇場窓口でお買い求めの方に限り特製ポストカードプレゼント

初日プレゼント

初日ご来場のお客様先着500名様に  
<特製エンディングノート>プレゼント!  
(シネスイッチ銀座のみ) 提供:終活カウンセラー協会



銀座 4丁目 和光ウラ通り 全席指定・入替制  
**シネスイッチ銀座**

03-3561-0707 [www.cineswitch.com](http://www.cineswitch.com)

連日 10:40 1:30 4:20 7:10

12月14日[土]~  
**千葉劇場**  
043-227-4591

12月14日[土]~  
**名演小劇場**  
052-931-1701

12月14日[土]~  
**KBCシネマ**  
092-751-4268

1月18日[土]~  
**横浜シネマ・ジャック&ペティ**  
045-243-9800

1月18日[土]~  
**シネマe-ra**  
053-489-5539

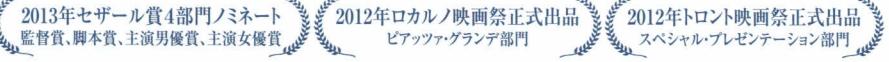
1月25日[土]~  
**シネ・ギャラリー**  
054-250-0283

1月公開  
**京都シネマ**  
075-353-4723

1月公開  
**梅田ガーデンシネマ**  
06-6440-5977

■2月公開 横浜・シアターキノ 011-231-9355 / 神戸・元町映画館 078-366-2636 / 三重・新富座 0596-28-2875  
■近日公開 山形・フォーラム山形 023-632-3220 / 仙台・フォーラム仙台 022-728-7866 / 金沢・シネモンド  
076-220-5007 / 佐賀・シアターアイ 0952-27-5116 / 大分・シネマ5 097-536-4512 / 鹿児島・ガーデンズシネマ  
099-222-8746 ■他全国順次公開 ※最新情報は公式サイトをご覧ください。

1月公開  
**Denkikan**  
096-352-2121



2013年セザール賞4部門ノミネート  
監督賞、脚本賞、主演男優賞、主演女優賞

2012年ロカルノ映画祭正式出品  
ピアツツ・グランデ部門

2012年トロント映画祭正式出品  
スペシャル・プレゼンテーション部門

監督・脚本:ステファン・ブリゼ 出演:ヴァンサン・ランソン / エレース・ヴァンサン / エマニエル・セニエ 2012年 / フランス映画 / 1時間48分  
提供・配給:ドマ / モザフィルムズ 宣伝:モザフィルムズ / ブラウニー 協力:ユニフランス・フィルムズ © TS Productions - Arte France Cinema - F comme Films - 2012  
[www.hahonomojimai.com](http://www.hahonomojimai.com)



# 愛する人の究極の選択をあなたならどう受け止めますか? 自分らしい最期を迎えるたいと思っていますか?

不治の病に冒され自分の最期の日を決心する年老いた母親とそれにとまどう息子。お互いに素直になれない不器用な母と息子の絆を描く感動作。



「命は誰のものか」と考えさせられた。  
母と子の違い。最後に結ばれる絆が静かで美しい。

**鎌田 實**  
(医師・作家)

身の廻りも、しておきたい事も中途半端な私。  
まだまだ情けないかな死を迎える状態じゃありません。

でも時が来たらこの映画のように身きれいに逝きたいですね。

**海老名香葉子**  
(エッセイスト)

胸が痛いのではない。胸に痛い：心が美しく痛い。  
観終わった後、美しき沈黙に支配され、  
溢れる涙が亡き母への懺悔となつた。

**奥田瑛二**  
(映画監督)

「いのちの時間」を自分で決める。

私自身がこの母親の状況下になつたとき、

そんな人生の選択をするのか。

息子と母親の関係言葉にできない愛、自分のことと相まって

違う角度から終活について考える機会になつた。

**武藤頼胡**

(終活カウンセラー協会代表理事)

人生の最後に本当に大切なことは何なのか。

残された者が生きていくのに必要なものは何か。

気丈だが愛を表現できない母と、自尊感情を持てない息子は

それを見つけられるのか……

心に深い余韻を残す方がいい映画だ。

**大塚敦子**  
(ジャーナリスト、「さよならエルマおばあさん」著者)

残された人生の時間がふつうの人より短い私にとって、

主人公の究極の選択には心が揺さぶられました。

私はもつとジタバタするし、

ジタバタして逝くのを見せることも私の役割だと思つてます。

**樹木希林**

(女優)

成熟したフランス映画に役者としておおいに嫉妬しました。

成績の最後に静かに拍手しました。

自分だったらどうするか、母親ならば、息子だったら。  
そして「生きること」をどのように捉えるか。

残された時間は無限ではなく、  
主人公の究極の選択には心が揺さぶられました。

自分の生き方をだれにどう伝えておくか。

伝えるのに早すぎるとはないのでしょう。

**坂岡洋子**

(老前整理コンサルタント)

目下まさに「人生の新しいじたく」真最中の私にとって、  
なんとも身に沁みる作品ですが、

全体に流れる、美しい静けさはなんなのでしょう！

これぞシナリオ・キャスト・ディレクトが完成させたハーモニイ…。

涙の中で静かに拍手しました。

**中村メイコ**  
(女優)

母親が大好きだった人も、母親がうつとおしくて仕方なかつた人も、  
母親を知らないで育つた人も、  
おそらくこの映画のなかに母親への想いをみつけるはずです。

**安西水丸**  
(イラストレーター)

身終いとは、なんて淋しい言葉だろう。

身終いとは、なんて虚ろに響く言葉だろう。

でも、そこには自らの意図意志が込められた時、  
身終いは、新たな意味を持ち始める。

そう、果敢な死への旅立ち、挑戦となるのですね。

**やましたひでこ**  
(断捨離・提唱者)

